



ふたまたせ



【学校ホームページの「QRコード」です！】
随時ホットな情報を更新しています！

【学校教育目標】“ひたむきで ぬくもりのある さわやかな 二俣瀬っ子の育成”



令和7年度 後期学校評価アンケートのまとめ

保護者・地域の皆様には、後期学校評価アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。学校運営協議会委員・保護者・教職員・児童の評価結果を下記のとおり分析しました。来年度の学校運営に生かして参りたいと思います。今後とも学校の教育活動にご支援・ご協力いただきますとともに、学校の取組に対するご意見・ご要望をお気軽にお聞かせください。よろしくお願ひいたします。

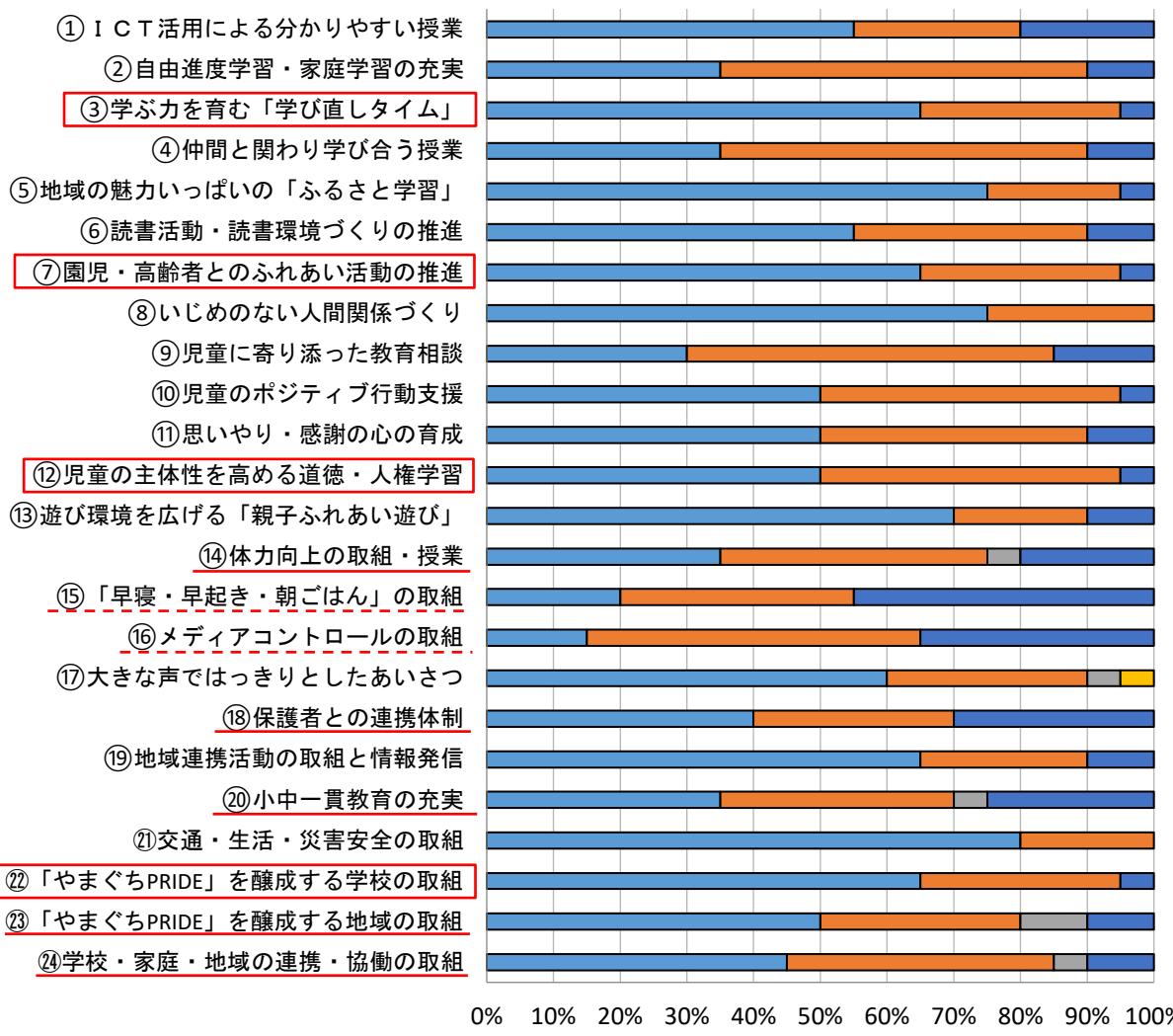
<グラフの見方について>

「5：あてはまる 4：だいたいあてはまる 3：あまりあてはまらない 2：あてはまらない 1：わからない」

※評価5及び4を「肯定的評価」、評価3及び2を「否定的評価」としています。

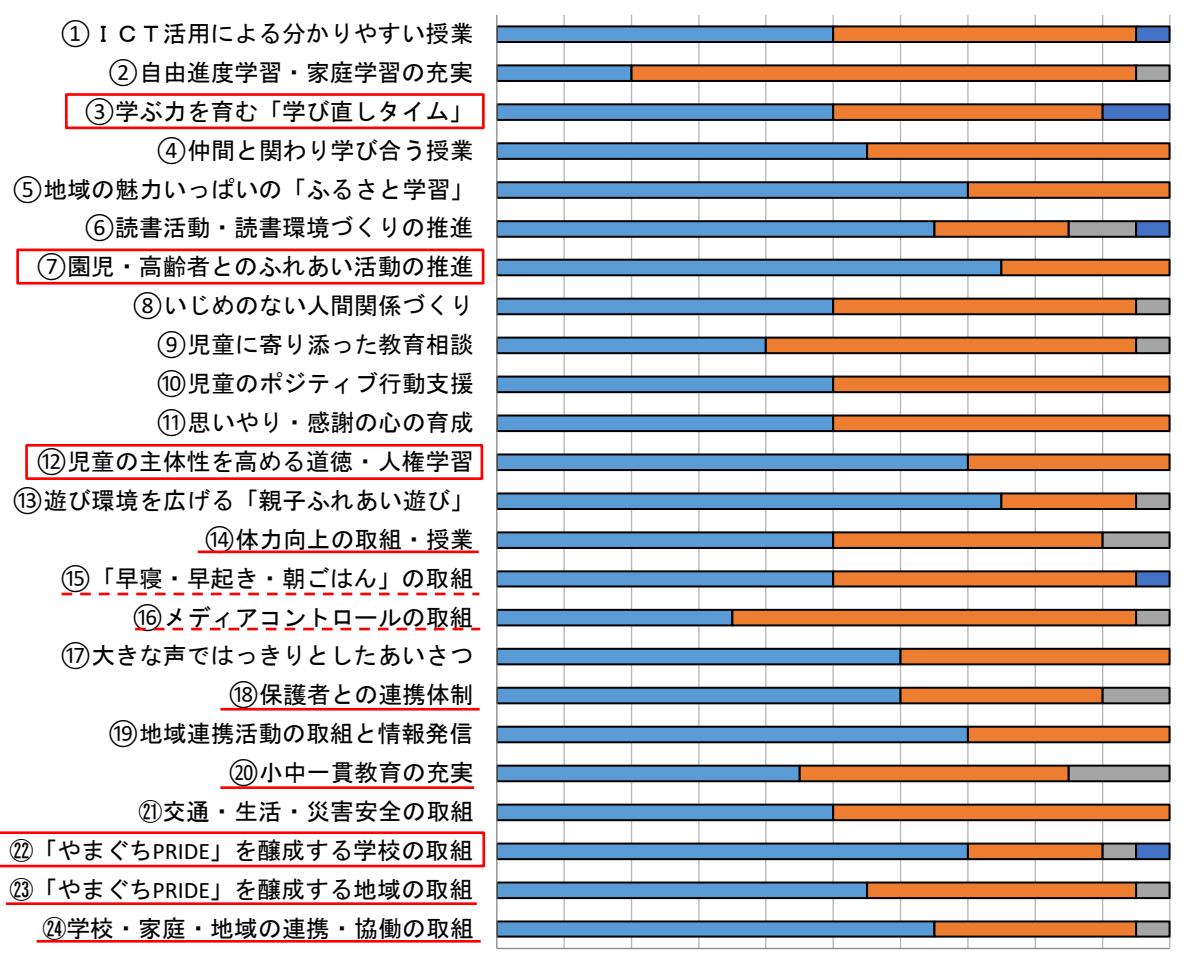
令和7年度 後期（12月末）よりよい学校づくり評価【学校運営協議会委員 21名】

■あてはまる ■だいたいあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■わからない



令和7年度 後期（12月末）よりよい学校づくり評価【保護者 20名】

■あてはまる ■だいたいあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■わからない



<取組の成果が見られる評価結果（囲み枠線）>

- 「③学ぶ力を育む『学び直しタイム』」について、地域委員・保護者ともに90%以上の肯定的評価となり、前期よりも20%以上向上しました。この取組については、児童・教職員・ちょボラの皆さんのが振り返りを生かし、公開しながら改善してきた成果と言えます。児童の学ぶ意欲の向上とともに、学力調査等の数値アップにもつながっています。運営上の課題も明確になったので、実施方法を改善し、児童の学びに向かう自信につなげていきます。
- 「⑦園児・高齢者とのふれあい活動の推進」について、両者ともほぼ100%の肯定的評価となりました。年間を通じた1・2年と保育園との交流活動や月1回の学校施設開放による高齢者団体とのふれあい活動の仕組みが今年度定着しました。来年度からはさらに交流・ふれあいの質の向上をめざします。
- 「⑫児童の主体性を高める道徳・人権学習」について、両者ともほぼ100%の肯定的評価でした。保護者・地域の皆さんとともに「地域とともに考え、深める道徳学習」を本校の特色ある地域連携活動の中核としたいと考えています。よろしくお願ひいたします。
- 「⑩『やまぐちPRIDE』を醸成する学校の取組」について、両者ともに90%を超える肯定的評価でした。特認校として二俣瀬の魅力いっぱいの生活・総合の実践やオープンスクールの取組の成果と言えます。しかし、十分ではありません。今後、特認校としての特色ある教育活動の創出を通して、地域の皆さんと一緒に児童に二俣瀬の未来を創る心意気を育てたいと考えています。

<取組の課題が見られる評価結果（実線）>

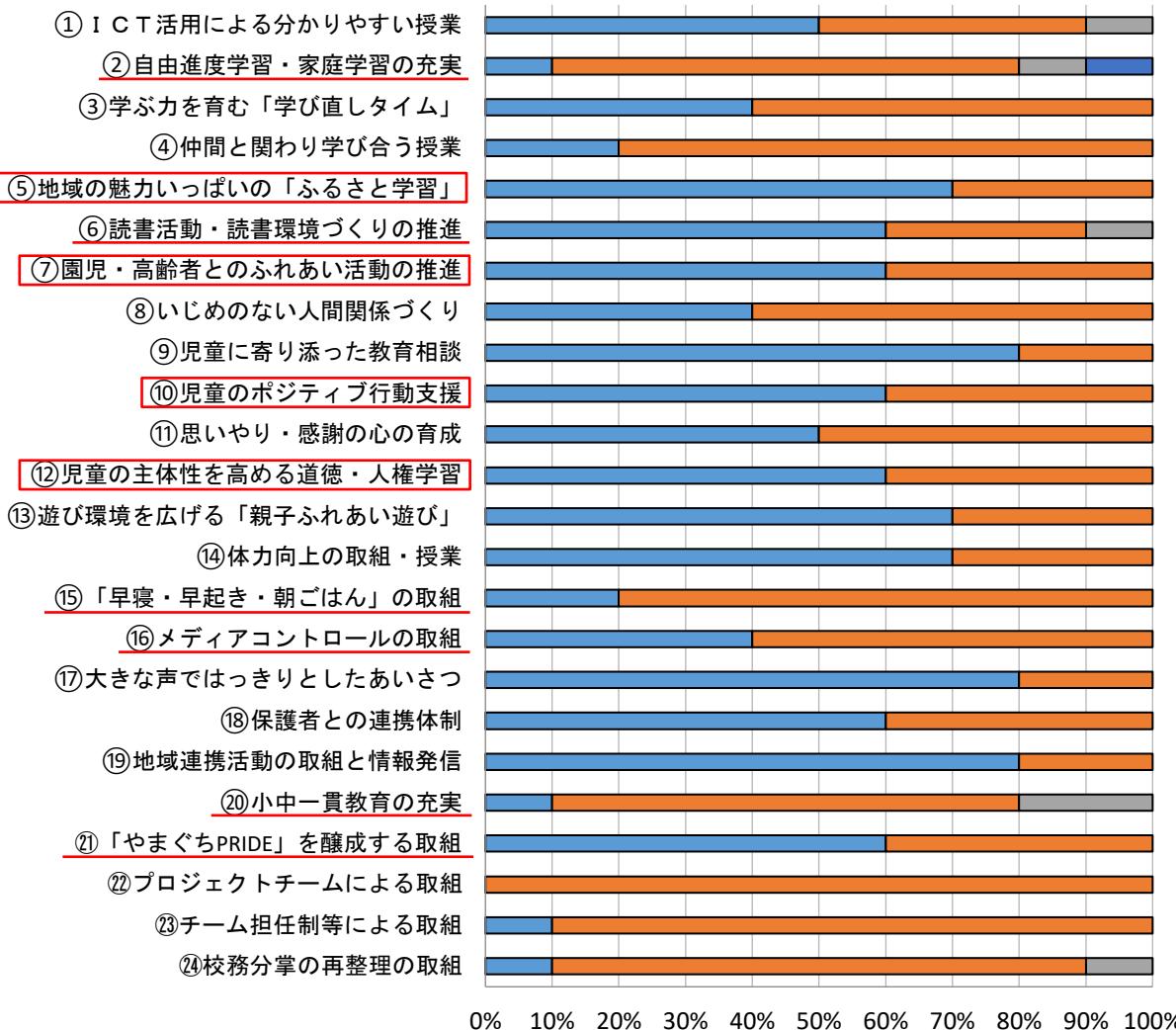
- 「⑭体力向上の取組」は、地域委員25%、保護者10%の否定的評価という結果でした。今年度は児童の運動・遊び環境を広げるために、「チャレンジカード」や「親子ふれあい遊び」に取り組み、一定の効果は見られました。今後は、家庭や地域と連携しながら児童の運動・遊び環境の問題点について協議し、児童が楽しみながら運動・遊びに没頭できる環境を整えていく必要性を感じていますので、ご協力をよろしくお願ひいたします。
- 「⑯保護者との連携体制」は決して低い評価ではありませんが、前期評価よりも下がる結果となりました。児童の成長・発達には、学校・家庭・地域による連携・協働体制が欠かせません。そこで、児童の成長を願うパートナーとして、特に学校と保護者の皆さんとの関わりを再考する必要性を感じます。今まで以上に、保護者・地域の皆さんとの声に耳を傾け、児童に関する情報共有を密にしながら丁寧で継続的な報告・連絡・相談を行って参ります。保護者・地域の皆さんとの声をどうか学校まで届けてください。
- 「㉑小中一貫教育の充実」は15~20%の否定的評価があり、ここ数年間、課題解決に至っていない状況です。そこで、今年度より「地区児童生徒会」を立ち上げ、小学校区での児童生徒主体の小中合同クリーン活動を実施したところですが、今後の活動の広がりが求められます。これから、児童生徒の願いを生かした地域貢献活動を年間を通じて実施する予定です。この取組のねらい等を保護者・地域の皆さんと共有したいと考えています。

<「わからない」の回答が多かった評価結果（破線）>

- ※「わからない」という結果は、学校からの広報活動不足です。今後、取組を見える化したり、家庭・地域に参加してもらったりしていきます。学校にお越しいただき、ぜひ取組にご参加ください。
- 「⑯『早寝・早起き・朝ごはん』の取組」「⑯メディアコントロールの取組」については、定期的な生活調査や朝食作りチャレンジ、メディアコントロール週間の取組を行っています。新たにふるさとの味親子調理や親子読書、親子で「メディアの約束」見直しの活動も加えました。今後、児童・保護者とともにそれら活動を振り返る場を設定し、成果と課題を共有しながら取組を改善します。また、保護者・地域の皆さんを啓発する取組も行う予定です。

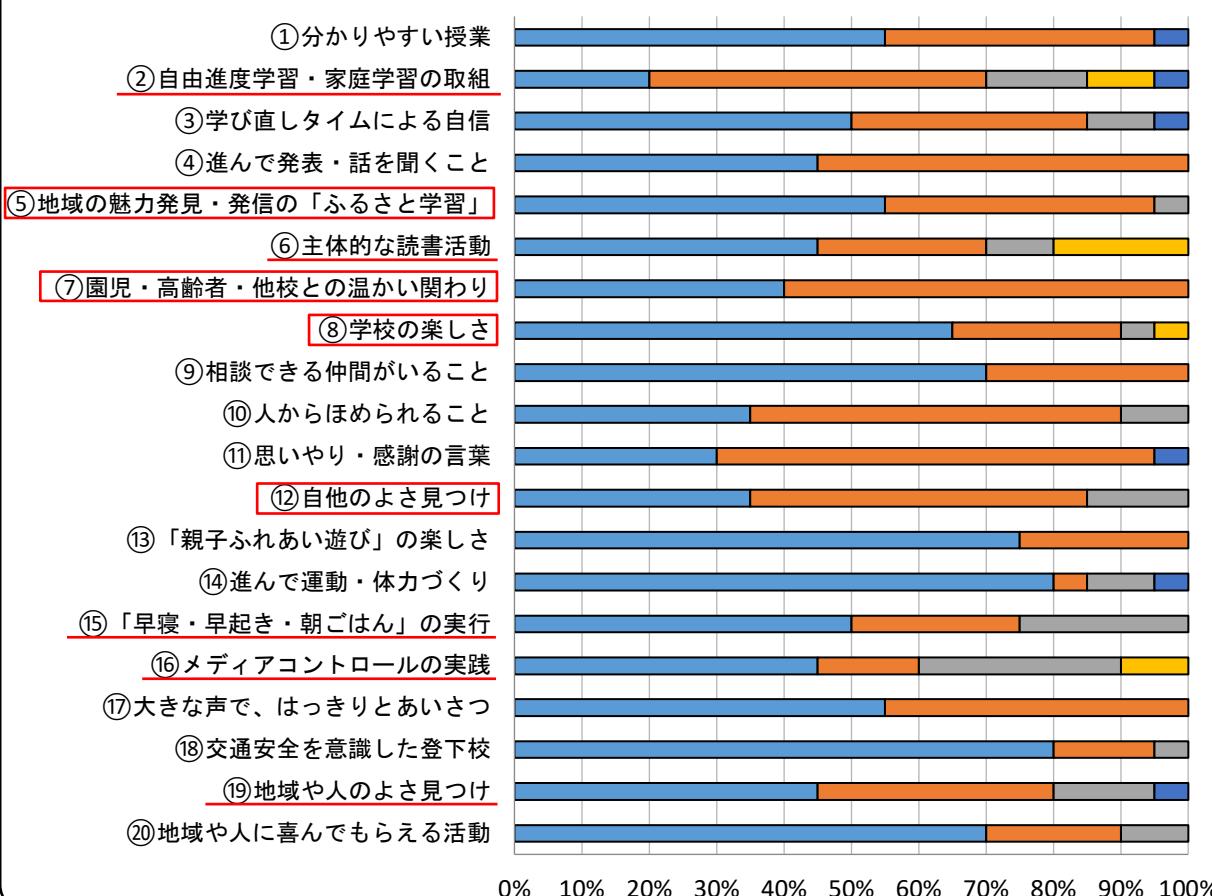
令和7年度 後期（12月末）よりよい学校づくり評価【教職員 10名】

■あてはまる ■だいたいあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■わからない



令和7年度 後期（12月末）よりよい学校づくり評価【児童 20名】

■あてはまる ■だいたいあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない ■わからない



<自由記述「保護者・地域の皆様からのご意見・ご要望について>

- *今、学校は、学校運営協議会や老人クラブ、その他の団体、個人を呼んでいるが、関わっている地域の人は増えているのでしょうか？もっと多くの地域の人を巻き込んで、学校をよく知ってもらうとよいと思います。
- *初めて取り組んだオープンスクールという大きなイベントを学校・家庭・地域が一体となり無事終えたことで、達成感を味わったところです。今後も学校・家庭と地域が双方に関わり合える二俣瀬でありたいものです。
- *特認校でありながら実績のない中、今年度、学校が、保護者・地域住民を巻き込み、実行に移されたことは高く評価される事実です。今後、このような取組を地域全体でどう実践していくべきかを考えていきたいと思います。
- *私たちも、まだまだ地域の力になれるのだという小さな自信がもてました。これからも誰かのために行動できる一人でありたいです。
- *概ね地域と連携した活動はできていると思います。これから、「二俣瀬っ子ここから会」ができたことで、より私たちも学校への深い理解や連携ができると考えています。

後期学校運営の一番の成果は、「ぶら KITA ツアー」「オープンスクール」という大きなイベントを通して、「こども まんなか 二俣瀬」を合言葉に、学校・家庭・地域が一体となり、地域の魅力いっぱいの教育活動を展開したこと、特認校利用者を実現できました。「二俣瀬っ子ここから会」をはじめとする、保護者・地域の皆さんのご支援・ご協力のおかげです。心より感謝申し上げます。この大きな成果・特認校としての一歩を生み出した地域連携活動を基盤に、本校教育活動のさらなる質の向上と、二俣瀬地域の活性化につなげていかなければなりません。そのためには、ここに挙げた学校評価アンケートのまとめを力にしながら成果と課題を共有し、課題解決活動に歩み出していく必要があります。二俣瀬の魅力を生かした課題解決活動となるよう、保護者・地域の皆さんからのよいお知恵や貴重なご意見・ご要望をお待ちしております。今後とも変わらぬご支援・ご協力をどうかよろしくお願ひいたします。

<取組の成果が見られる評価結果（枠内枠線）>

- 児童の「⑤地域の魅力発見・発信の『ふるさと学習』」の肯定的評価が20%近く伸びました。教職員の肯定的評価は100%です。これは、オープンスクールでの発表に向けた取組の成果と言えます。本校スクールミッション「特認校として、二俣瀬の魅力いっぱいの教育活動の創出」を具現化する取組の一つです。これからも、児童の願いを実現する「ふるさと学習」を推進していきます。
- 児童の「⑦園児・高齢者・他校との温かい関わり」、教職員の「⑦園児・高齢者とのふれあい活動の推進」とともに100%の肯定的評価でした。年間を通じた保育園・高齢者団体・他校との集合・合同学習の成果です。本校児童の「多様な人と関わり、自分を表現すること」への課題解決活動につながりました。今後は、コミュニケーション力の向上に向けた取組につなげていきます。
- 児童の「⑧学校の楽しさ」は前期よりも肯定的評価が25%アップしました。教職員の「⑩児童のポジティブ行動支援」の効果も影響していると考えられます。児童全員が「学校が楽しい」と感じる学校・学級づくりをめざした全教職員による取組を進めます。
- 児童の「⑫自他のよさ見つけ」は前期よりも肯定的評価が30%向上しました。教職員の「⑫児童の主体性を高める道徳・人権学習」の成果と言えます。地域道徳・人権学習を実施し、児童と保護者・地域の皆さんとが価値観を交流した学びの効果も大きかったと考えます。来年度は「地域とともに学び合う道徳・人権学習」を地域連携活動のウリにしていきたいと考えています。

<取組の課題が見られる評価結果（実線）>

- 前期に続き、教職員・児童の「②自由進度学習・家庭学習」の取組には課題があります。自由進度学習において児童の主体性が育まれていないことやその取組が家庭学習につなげられていないことが大きな原因です。自由進度学習はこれから重視すべき学習法なので、授業で児童の主体性を育み、家庭学習で学習の習慣化を身に付けていくサイクルをめざします。
- 児童の「⑥主体的な読書活動」と教職員の「⑥読書活動・読書環境づくりの推進」はともに前期評価結果よりも下がっています。学校司書や読書ボランティアと連携した様々な読書イベントを実施していますが、児童の日常的な読書活動には十分つながっていません。今後もその取組や今年度から取り組み始めた「親子読書」を継続しながら、少し長いスパンで児童の変容を見取りたいと思います。この取組がメディアに頼らない生活の改善の一助となることを期待し、保護者との連携を強化していきます。
- 児童の「⑮早寝・早起き・朝ごはんの実行」については25%が否定的評価でした。生活調査で「夜遅くまで起きている・朝起きていない・朝ごはんを食べないことがある」児童が一部いることが分かれています。メディアの影響が多く、家庭でのルール作りが欠かせません。今後、保護者と連携した取組の必要性を感じています。
- 児童の「⑯メディアコントロールの実践」は一番大きな課題で、児童の40%が家でメディア利用を制限できていないようです。今年度は、家庭で「メディアの約束」が守れなかった場合のペナルティを考えてもらったり、「子どものメディアへの関わり方」の講演後に親子で「メディアの約束」を見直してもらったりしました。これからも学校と家庭で連携した取組を行うとともに、家庭でのさらなるメディア活用のルールの徹底をお願いいたします。
- 教職員の「㉑『やまぐち PRIDE』を醸成する取組」についての肯定的評価に対して、児童の「⑯地域や人のよさ見つけ」は20%が否定的評価となっています。今年度の重点目標の一つに「ふるさと学習」を位置付けていましたが、児童と地域素材・人材とのつながりが不十分だったかもしれません。ふるさとの未来をつくる心意気を育んでいく土台となるのが、「地域や地域の人へのあこがれ・愛着」です。それらを高める取組に今後、着手します。

